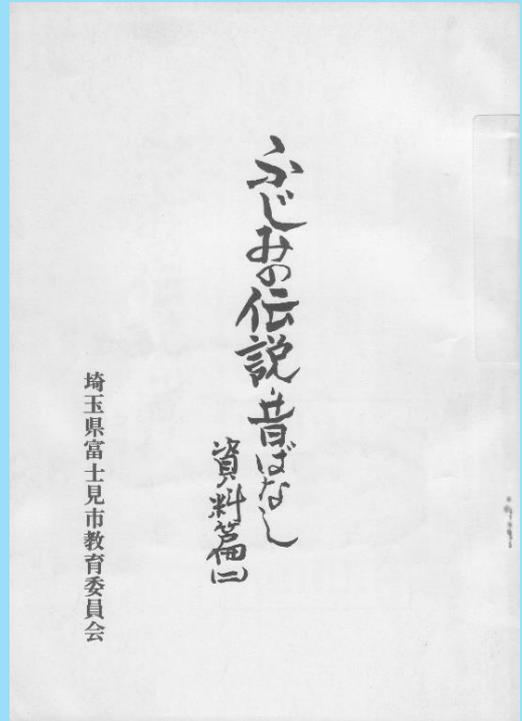


資料篇（一）表紙



資料篇(二)表紙

書名：

ふじみの伝説・昔ばなし  
資料篇（一）

ふじみの伝説・昔ばなし  
資料篇（二）

出版年月： 1979 (昭和54).3  
著者： 富士見市教育委員会  
収集伝説： 114話  
本サイズ： B5サイズ(182×257mm)  
ページ数： 38P

1980 (昭和55).3  
富士見市教育委員会  
213話  
B5サイズ(182×257mm)  
44P

なか見！検索 コンテンツ：

- ・目次
- ・69 水子観音
- ・92 南畑用水の堀削に尽くした  
小山作兵衛

- ・目次
- ・4 丸池の大蛇
- ・24 ちゃたて窪
- ・25 茶立て窪を入手し助郷へる
- ・58 倉の二階に避難して人も馬も流れて行くの見た明治  
43年の水害（十一）
- ・171 大応寺の由来

## ふじみの伝説・昔ばなし①

1 狐にばかされた話 (その一)	動物
2 狐にばかされた話 (その二)	動物
3 狐にばかされた話 (その三)	動物
4 狐に騙された話	動物
5 焚火にあたりにきた二匹の狐	動物
6 狐火	動物
7 俱利伽羅不動のどじょう	動物
8 八幡太郎義家とほたる	動物
9 咳を治すエゴの木枝 (しゃぐじ)	植物
10 橋際に大藤	植物
11 弥陀堂	植物
12 鎌倉街道	地形・地名
13 平八道の由来	地形・地名
14 松の木坂	地形・地名
15 山王坂	地形・地名
16 銀波坂 (その一)	地形・地名
17 銀八坂 (その二)	地形・地名
18 万兵エ坂 (その一)	地形・地名
19 土橋坂 (万兵エ坂) (その二)	地形・地名
20 陣河坂	地形・地名
21 地名にちなむ鶴と馬の絵 (その一)	地形・地名
22 地名にちなむ鶴と馬の絵 (その二)	地形・地名
23 はんな様の池	水
24 魚を食べると目がつぶれる	水
25 雨ごいに聞く泉の水	水
26 姥袋	水
27 渡戸のカマ	水
28 かま (井戸)	水
29 七夕と馬の字	村・家
30 南畑城跡五輪塚のいわれ (その一)	聖地
31 五輪家敷 (その二)	聖地
32 五輪墳 (その三)	聖地
33 五輪塚 (その四)	聖地
34 五輪塚 (その五)	聖地
35 鐘塚 (その一)	聖地
36 鐘塚 (その二)	聖地
37 姥塚	聖地
38 赤飯塚	聖地
39 赤飯塚 (その二)	聖地
40 赤飯塚 (その三)	聖地
41 胴塚 (その一)	聖地
42 胴山 (その二)	聖地
43 胴山 (その三)	聖地
44 狐塚	聖地

## ふじみの伝説・昔ばなし①

45 おとか山 (その一)	聖地
46 おとうか山 (その二)	聖地
47 しゃり骨山	聖地
48 金くそ山	聖地
49 難波田城跡	建物
50 大久保古城蹟	建物
51 天神社	建物
52 殿山 (その一)	建物
53 殿山 (その二)	建物
54 弁慶橋 (その一)	建物
55 弁慶もぐり (その二)	建物
56 弁慶もぐり (その三)	建物
57 榛名さまの伝説 (その一)	神仏
58 榛名さまの伝説 (その二)	神仏
59 榛名さまの伝説 (その三)	神仏
60 榛名さまの伝説 (その四)	神仏
61 榛名さまの伝説 (その五)	神仏
62 榛名さまの伝説 (その六)	神仏
63 馬上咎めをする八幡社	神仏
64 八幡社と白馬	神仏
65 車地藏 (その一)	神仏
66 車地藏 (その二)	神仏
67 車地藏 (その三)	神仏
68 つんぼのお諏訪様	神仏
69 水子観音	神仏
70 医者坊主様	神仏
71 水子阿弥陀堂 (その一)	神仏
72 水子阿弥陀堂 (その二)	神仏
73 鶴馬山光明寺	神仏
74 上沢薬師堂の縁起	神仏
75 不動堂	神仏
76 おさと弁天 (その一)	神仏
77 お里さんと蛇 (その二)	神仏
78 馬の助稲荷	神仏
79 ねかせない庚申様	神仏
80 庚申様	神仏
81 お薬師さん	神仏
82 並木の地藏さん	神仏
83 実明様	神仏
84 牛頭観音	神仏
85 おのひめ様	神仏
86 水光山大応寺	神体・宝物
87 上南畑神社	神体・宝物
88 水越様	神体・宝物

## ふじみの伝説・昔ばなし①

89 犬も墓 (その一)	神体・宝物
90 犬も墓 (その二)	神体・宝物
91 犬も墓 (その三)	神体・宝物
92 南畑下戸に酒三升強いて飲ませば又三升	偉業
93 南畑用水の掘削に尽くした小山作兵衛	偉業
94 しゃくじの打ち斬られ (その一)	事件
95 石杖の打ち斬られ (その二)	事件
96 しゃくじの打ち斬られ (その三)	事件
97 しゃくじのぶったくり (その四)	事件
98 しゃくじ様での銃殺 (その五)	事件
99 錫杖様 (その六)	事件
100 ぼっこおし (その一)	事件
101 ぼっこおし (その二)	事件
102 ぼっこおし (その三)	事件
103 慶応のぼっこし (その四)	事件
104 ぼっこおし (その五)	事件
105 孝太郎兵エの墓	事件
106 鶴殺し太郎兵エ	事件
107 太郎兵エの処刑	事件
108 鶴馬の諏訪社と富の地藏との争い	紛争
109 あづき婆あさん	妖怪・変化
110 小豆ばばあ	妖怪・変化
111 姥袋	妖怪・変化
112 蛇の池の話	精霊
113 鶴馬の獅子舞	祭礼
114 木染祭り	祭礼

発行昭和54年3月31日

## ふじみの伝説・昔ばなし②

1 きつねにばかされた話	動物
2 弁天様の白へび	動物
3 へびのはなし	動物
4 丸池の大蛇	動物
5 丸池の魚	動物
6 むじなの話	動物
7 ムジナの数え歌	動物
8 うがらす	動物
9 新河岸川の鯉とり	動物
10 鴨の猟場	動物
11 富士見市内に昔鷲鷹がとんできた	動物
12 紅花	植物
13 菱の実とり	植物
14 尾張大納言の柿	植物
15 はんなさんの藤	植物
16 榛名神社の藤	植物
17 大櫓（おおげいき）	植物
18 大けやき	植物
19 羽沢	地形・地名
20 殿山のおこり	地形・地名
21 尻たれ坂（宮坂）	地形・地名
22 観音田	地形・地名
23 三本木	地形・地名
24 ちゃたて窪	地形・地名
25 茶立て窪入手し助郷へる	地形・地名
26 城の下	地形・地名
27 地名の変化（正網）	地形・地名
28 つるまき（小名）	地形・地名
29 古道	地形・地名
30 鎌倉道と一本の木	地形・地名
31 鎌倉街道インガ道	地形・地名
32 バンヂン山	地形・地名
33 ひなっぱ	地形・地名
34 松の木坂	地形・地名
35 宮坂	地形・地名
36 般若院の坂	地形・地名
37 精進場	地形・地名
38 酒つけて土地を手ばなす	地形・地名
39 五反田（悪田）を鶉町に押しつける	地形・地名
40 石畳の道	地形・地名
41 山王坂下風景	地形・地名
42 水のはなし（榛名神社）	水・川・池
43 権現堂（その一）	水・川・池
44 権現堂（その二）	水・川・池

## ふじみの伝説・昔ばなし②

45 マメと井戸水	水・川・池
46 水子の神井戸	水・川・池
47 水子のお井戸	水・川・池
48 明治四十三年の大水害 (一)	水・川・池
49 明治四十三年の大水害 (二)	水・川・池
50 明治四十三年の大水害 (三)	水・川・池
51 明治四十三年の大水害 (四)	水・川・池
52 明治四十三年の大水害 (五)	水・川・池
53 明治四十三年の大水害 (六)	水・川・池
54 明治四十三年の大水害 (七)	水・川・池
55 明治四十三年の大水害 (八)	水・川・池
56 明治四十三年の大水害 (九)	水・川・池
57 明治四十三年の大水害 (十)	水・川・池
58 明治四十三年の大水害 (十一)	水・川・池
59 明治四十三年の大水害 (十二)	水・川・池
60 明治四十三年の大水害 (十三)	水・川・池
61 明治四十三年の大水害 (十四)	水・川・池
62 十石暮し	水・川・池
63 橋の上の女	水・川・池
64 新河岸川の帆かけ船	水・川・池
65 渡し船のばあさん	水・川・池
66 下手の渡し	水・川・池
67 渡頭の秋	水・川・池
68 うつり変わる新河岸川の七〇年	水・川・池
69 おえん源 (その一)	水・川・池
70 おえん源 (その二)	水・川・池
71 馬舟の木	水・川・池
72 鶴新田の草分け	村・家
73 秋元から萩元姓へ	村・家
74 名字かえ	村・家
75 七沢八寺に五戸の組あり	村・家
76 水子八景	村・家
77 とうもろこしのつukれない家	村・家
78 つるせの車屋 (一)	村・家
79 つるせの車屋 (二)	村・家
80 新水車	村・家
81 貝塚の水車	村・家
82 貝塚山の車屋	村・家
83 萩原家の水車	村・家
84 久保の水車	村・家
85 中の水車	村・家
86 関沢の水車	村・家
87 下の水車	村・家
88 水車について	村・家

## ふじみの伝説・昔ばなし②

89 長屋門	村・家
90 押田がすり	村・家
91 鳥見役勘兵エ	村・家
92 鳥見役	村・家
93 鳥見役	村・家
94 馬に乗っては通れない (その一)	村・家
95 馬に乗っては通れない (その二)	村・家
96 大沢一族の土着	村・家
97 清吉問屋	村・家
98 浪人小屋	村・家
99 宿のお蔵番	村・家
100 御陣屋の裏門	村・家
101 おくら	村・家
102 郷倉跡	村・家
103 お蔵跡	村・家
104 五輪さま	聖地
105 ケイダンボー	聖地
106 大応寺塚	聖地
107 稚児塚	聖地
108 姥塚 (その一)	聖地
109 ばばあ塚 (その二)	聖地
110 ばばあ塚の畑	聖地
111 貝がら塚 (その一)	聖地
112 不報寺わきの大塚	聖地
113 経塚 (その一)	聖地
114 経塚 (その二)	聖地
115 お舟山	聖地
116 金クソ山のはなし	聖地
117 金クソ山	聖地
118 八十王院と南畑弾正の古跡	建物
119 高橋 (その一)	建物
120 高橋 (その二)	建物
121 木染橋	建物
122 周防院	建物
123 高札	建物
124 五〇たたきや一〇〇たたき	建物
125 ぬかりやにすぎたるもの二つ	建物
126 医者坊さま (その一)	神仏 (民間信仰も含む)
127 医者坊さま (その二)	神仏 (民間信仰も含む)
128 いしゃ坊主	神仏 (民間信仰も含む)
129 あたごさま	神仏 (民間信仰も含む)
130 地藏山	神仏 (民間信仰も含む)
131 禅主庵	神仏 (民間信仰も含む)
132 観音塚	神仏 (民間信仰も含む)

## ふじみの伝説・昔ばなし②

133 五郎死墓	神仏 (民間信仰も含む)
134 馬頭観音様	神仏 (民間信仰も含む)
135 水子の阿弥陀様	神仏 (民間信仰も含む)
136 上沢の百観音	神仏 (民間信仰も含む)
137 とうがらし地蔵	神仏 (民間信仰も含む)
138 分校わきの地蔵様	神仏 (民間信仰も含む)
139 塚越地蔵	神仏 (民間信仰も含む)
140 えぼとり地蔵	神仏 (民間信仰も含む)
141 いぼとり地蔵	神仏 (民間信仰も含む)
142 芝崎山不動院の庚申様	神仏 (民間信仰も含む)
143 阿蘇様	神仏 (民間信仰も含む)
144 流れついた観音さまのご利益	神仏 (民間信仰も含む)
145 天神さまのたたり	神仏 (民間信仰も含む)
146 長谷寺の石板碑	神仏 (民間信仰も含む)
147 牛頭云々の石碑	神仏 (民間信仰も含む)
148 三浦八幡 (その一)	神仏 (民間信仰も含む)
149 三浦八幡 (その二)	神仏 (民間信仰も含む)
150 お大日様	神仏 (民間信仰も含む)
151 薬師寺のおこり	神仏 (民間信仰も含む)
152 あじ場の観音様	神仏 (民間信仰も含む)
153 耳んだれをなおす地蔵	神仏 (民間信仰も含む)
154 山下の観音	神仏 (民間信仰も含む)
155 神明さま	神仏 (民間信仰も含む)
156 つんぼお諏訪の由来	神仏 (民間信仰も含む)
157 鶴馬のお諏訪様	神仏 (民間信仰も含む)
158 金くそ山の権現様	神仏 (民間信仰も含む)
159 お乳の出をよくしてくれるはんなさん	神仏 (民間信仰も含む)
160 谷田薬師	神仏 (民間信仰も含む)
161 谷田薬師如来	神仏 (民間信仰も含む)
162 お産にご利益の観音さま	神仏 (民間信仰も含む)
163 サイズチ山と六地蔵	神仏 (民間信仰も含む)
164 馬上咎めをする観世音	神仏 (民間信仰も含む)
165 下馬射下之観世音	神仏 (民間信仰も含む)
166 増田家の地蔵様	神仏 (民間信仰も含む)
167 鶴松庵の埋め墓	神仏 (民間信仰も含む)
168 念仏講	神仏 (民間信仰も含む)
169 お念仏	神仏 (民間信仰も含む)
170 榛名神社の神様改め	神体・宝物
171 大応寺の由来	神体・宝物
172 性蓮寺の上田氏の墓石	神体・宝物
173 貝塚山発掘と夢枕	神体・宝物
174 犬の墓	神体・宝物
175 犬塚	神体・宝物
176 力じまん (平三郎) (その一)	偉業

## ふじみの伝説・昔ばなし②

177 カじまん (三角石) (その二)	偉業
178 カじまん (常右エ門) (その三)	偉業
179 カじまん (その四)	偉業
180 カじまん (喜八山) (その五)	偉業
181 力くらべ	偉業
182 力持ち 武蔵山長五郎 (その一)	偉業
183 力持ち 武蔵山長五郎 (その二)	偉業
184 番付板額	偉業
185 護国寺の火事	事件
186 大正の罹災	事件
187 打ち壊し (その一)	事件
188 ぼっこしにあった刀きず (その二)	事件
189 ぼっこし (その三)	事件
190 ぼっこし鎮圧のための砲弾 川底より (その四)	事件
191 水子のぼっこし (その五)	事件
192 ぼっこし (その六)	事件
193 慶応のぼっこし (その七)	事件
194 しゃくじの事件 (その一)	事件
195 福永智寿 (その二)	事件
196 錫杖での処刑者と女性	事件
197 錫杖権現での銃殺刑	事件
198 錫杖の打ち斬られ	事件
199 池端の出入り	紛争
200 不動様の喧嘩	紛争
201 渡戸の獅子舞	祭礼
202 八幡神社の獅子舞	祭礼
203 つるまの大まち (大市)	祭礼
204 祭灯籠	祭礼
205 はんなさんの側の田の田植	その他
206 正夢	その他
207 大將軍	その他
208 四月十日の雪	その他
209 チョンマゲ	その他
210 正月のお訪れ人 (一)	その他
211 正月のお訪れ人 (二)	その他
212 瞽女 (ごぜ)	その他
213 電気のはなし	その他

## 六九、水子観音

ふじみの伝説・昔ばなし 資料篇（一） 20ページ

十万庵（遊歴雑記）の原文より

新座郡水子村観音の座像。

武州新座郡水子村は、引股の駅と大井の駅との中路に挟りて、村里広く上中下に分かれ、それぞれの小名あり、大原とかやいふ処に、百姓勘右衛門なる者の家に、弘法大師の自画真筆観世音の絵像を所持せり。尊像の御長凡八寸計靈験いちじるしく毎月一七日より二三日迄、近村の男女歩みを運さるものなく、取分三月二日は大師入滅の日なれば殊に賑はしく、もろもろの商人は途中に居ならびて市をなせり、近年勘右衛門やしき内に別室を営み安置し、利生奇特まちまちにいひ伝ふ、東武より行程凡六里半はありぬべし、抑この画像の濫觴を聞に昔天正六丁酉年川越合戦の頃かによ、ある夕暮年若き一人の旅僧来りて一夜の宿を乞、此家のあるじ日頃邪見にして弘法を破しけるが、機縁にやありけん、ころよく一泊を許しけり、此家に二九からぬ年の娘一人ありて、能旅僧に給仕しけり、翌朝彼僧礼細々とのべて出立しける、しかるに彼娘男に通ぜらるに月を重ねて懐妊しけるは、怪異といふべし、父母は娘を責て日、何れの子を孕るや速にいふべし、案ずるに恐らく先頃止宿せし旅僧に通じて胎なるべしと、娘いえらく、旅僧会て猥の事なし、何ぞ何国の人にか通ぜん。前後これ迄いまだ男に馴し事なければ、我甚不思議におもひころくるしむと答ふ、しかりといえども正しく懐妊に紛れなければ密通に定りけり、娘も怪異の事に思へども懐胎したれば力なし、しかるに月みち件の娘男子を出産せり、いよいよ奇怪といふべし、父母の心には、ひと筋に旅僧の子なりとおもへり、しかりといへども孫なるに依て、流石捨てがたく取上て成立んかとも思ひしが、或日件の旅僧不図入来りて去年止宿したりし札をのべるにぞ、父母かねて待もふけたる事なれば、旅僧を呵して日、去年足下のたそがれに及んで、旅泊に迷ふを勞しく思ひ止宿を報謝せしに、思を仇にて報し娘へ徒し剩へ懐妊せしめ、既に昨日男子を産り、悪き仕業目にも物見せん、早々赤子をいだき行くべしと立腹大方ならず、継で仏教を識り、法師をさまざまに悪回しけり、旅僧答て、我会て猥がましき心なければ、争か徒に奸涯せん。豊何ぞ靈偽をいはんや、愛女を能純されなば明白たるべし、但しわれ此家に一宿せしを以てかここに無失の汚名を得たるは是非なし、その産るる子何方にありやと、父母則産所に入て彼赤子をいだき出つつ、僧に迫るに僧則左の手野平に乗て謂て日、我更に密通せざれば、わが子にあらざる証拠を見すべしと、口をひらき息を以て彼子を吹けば、不思議や須臾しゅゆ（臬）に赤子のかたち髣髴と消失水に解て手の平に只水のみ残り、家族一同奇怪の程驚くに堪たり、彼僧硯を乞つつ件の水を硯へたらし

墨摺流して観世音の像を画きていへらく、生るる子若鬼蛇なりといふも、汝等が為に血筋孫なれば、如何せん、しかるに今赤子は泡と化し、今又観世音の御姿となりしこそ、是汝等がとし頃悪業の所感、娘にせまり孫と化して善道に入らしめ賜ふ、仏蛇の方便なれば、今日より速に平生の所行をあらため、悪心を翻して善道に趣くべしといひ終るや否や、忽爾として旅僧の形消失て観世音の画像ばかりぞ残りける。実に不思議といはんか、今勘右衛門方に安置する靈妙の画像これ也。此日天文六年二月二一日なりしかば、扱は弘法大師の、われら悪人の為に善巧方便して済渡し賜ふ。摂化利生の理りを感じ伏し、それより悪行を止めて善心にもとづき、彼画像を崇敬給仕し、代々家宝に伝来しけるとなん。天文六年よりめづらしき一品たり。しかしより以来水子村とよびしを今はみぞこ村といひならはせり、蓋村名の根元は是より起るとなん。

※水子村観世音を記した（遊歴雑記）は、江戸本所の生まれで江戸本法寺末の廓然寺住職釈敬順であり、文化八年五一才の時に僧職を息子に譲り、自分は十方庵に隠居し、好きな遊歴に日々を送るという生活の中で、江戸周辺を廻り、印象、神社、仏閣の由来、祭礼、伝説、風習などを記したのがこの本である。

文化一二年に稿成った第一編からなり第五編が文政一二年と一四年間を費している。なかでも十方庵は武蔵野をとくに愛したもようである。水子村観音のことは、遊歴雑記第四編巻の中に所蔵されている。

文 責 伊藤正和

元 話 十方庵（遊歴雑記）文政一二年

### 九三、南畑用水の掘削に尽くした小山作兵衛

ふじみの伝説・昔ばなし 資料篇（一）29ページ

伊佐沼用水路は、小中居を通り、川越線を横切って久下戸部落に至り、根岸接骨院の手前で県道に出る。さらに県道端を進み、東大久保から下南畑の金錯前を経て、氷川神社の北側までの長きにわたった。

完成した用水は、久下戸辺では久下戸用水と呼ばれたが、当南畑地方では、彼の業績をたたえて、小山用水とか、作兵衛堀と呼称されたといわれる。

当時、名主の作兵衛は、用水工事のために好物の酒を断って奔走した。そのため竣工祝いの席上で、川越城主、松平伊豆守信輝は、作兵衛の功労を賞して、酒肴を賜ったところ、彼が大盃を三度飲みほしたのに驚き「南畑下戸に酒三杯」と称されたと、今に伝えられている。

（参考資料）作兵衛とは下南畑、小山宏幸氏の先祖である。彼は貞享二年（一六八五）には組頭であったが、元禄期に至り、名主になつたらしい。元禄六年（一六九三）には、名主を勤めていた。堀が完成された当初は、かなりの水量

もあったが、長距離であった上、上流の各村民による水の盗引もあり、末端の部落の用水としては十分ではなかったと言う。

文責 井田実

元話 「南畑村之沿革史」ほか

## 四、丸池の大蛇

ふじみの伝説・昔ばなし 資料篇(二) 6ページ

昔、丸域には大蛇がおったそう。池のそばの土手に大きな穴があって、そこに住んで居たらしい。電信柱位太くて長かったそう。

ある年、丸池の水が少なくなったとき、大蛇は困って、市役所の北にあった大沼にいったしまったそう。その日は、丸池から大沼までの道の草がおしたおされていたそう。

採話者 鈴木リサ

話者 荻島弘 六三才(関沢二-二六)

## 二四、ちゃたて窪

ふじみの伝説・昔ばなし 資料篇(二) 10ページ

伊豆守(松平)検地二御出ノトキ、精水湧キ出デタル故、茶ヲタテタル処カトイフ、本村地藏街道二入りテ四、五町ノ処ニアリ。

「大井村郷土誌」より

文責 井田実

## 二五、茶立て窪を入手し助郷へる

ふじみの伝説・昔ばなし 資料篇(二) 10ページ

勝瀬村は、川越街道に面した土地がないため、助郷の割り当てが多くたいへん困っていた。そのため城主の許可を得て、苗間村(現大井町)の一部をやつとのことで入手することが出来た。

その後は、土地の増加に加えて大井役もすくなくなり、村人は大変よろこんだという。

一方、土地を手ばなした苗間村、八三人もの住民がいながら大切な土地をとられたというので、「苗間の八三馬鹿」と近村の評判になったということである。

「福岡歴史物語」より

文責 井田実

## 五八、倉の二階に避難して人も馬も流れて行くの見た

### 明治四十三年の水害（十一）

ふじみの伝説・昔ばなし 資料篇（二） 16ページ

私が見ていたらね。なるこの家に三人か四たりいました。それでいて「たのまいやあーい」と怒鳴っているんです。それで私どもの耕地中に島地があるんです。畑ねそのまわりにはんの本があるんです、そこにつかえて、二～三時間止まっていたね。ところがはんの木が倒れてね、流れていったですよ、結局は天神様。

南畑公民館発行昭和五十年二月の「南畑昔ばなしを語る会その一」「洪水」から抜粋文であり、参加の時六十三才から八十二才までの者で二十二名の参加者名が記されている。テーマ講師中村忠志氏であった。

南畑公民館発行「洪水」より

文責 伊藤正和

## 一七一、大応寺の由来

ふじみの伝説・昔ばなし 資料篇（二） 35ページ

今も大応寺の東には古池が一つある。昔、此の池の水面が夜になると光が燦然として現われるので、里人は不思議にしていた。が、その原因を知るに由なかった。たまたま一人の僧侶があらわれたので、里人その件を話せしに、その旅僧は、しからばその原因を明らかにしてやると言って、里人の前で池の畔に立ち、心静かに読経を始めた。

しばらくして、その僧は里人に向い、光の本体は水底にある故探すべしと言ったので、里人が探すと、果たして水底より不動尊の像一基を得た。

その僧こそは高僧、弘法大師であった。里人は大師の言に従い、此の不動尊を本尊として寺を営んだ。これが大応寺で、水光出と号するのだと。

「水谷尋常高等小学校郷土調査」より

文責 井田実